



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1848号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL (055) 972-2122
会長 矢岸 克行 幹事 森崎 祐治



広重版画より 三島 朝霧

第1911回例会

2011.12.8雨

司 会

柴崎恵子君

ロータリーソング

「我等の生業」
指揮 石井良衛君

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	39/46	84.78%	44/46	95.65%
今回	38/48	79.17%	会員総数	52名

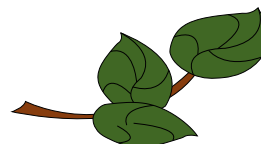
欠席者 石川君、亥角君、鈴木(郁)君、鈴木(正二)君、
諏訪部(敏)君、千葉君、野口君、柳田君、
渡辺(雅)君、渡辺(芳)君

会長挨拶

会長 矢岸克行君

皆様こんばんは。寒いですね。外は雨。本当に冷え込んでいます。しかし例会場は暖かく和やかな雰囲気になっています。寒さを忘れ、本日の親睦例会を楽しんでください。

久し振りにインターネットで“今日は何の日”のところを開いて見ました。12月8日、私の頭には第2次世界大戦の開戦がありましたが、そこにあったのは元ビートルズのジョン・レノンがニューヨークで射殺された日とありました。戦後70年、当然本日の一番目に来るのが戦争の事かと思っていましたが、遠い昔の話になったような気がしてなりません。世の中、衣食住が満たされてまいりますと、そして平和を享受するようになりますと、先人の苦勞して苦勞して築いてくれた事を忘れがちになるのかと。今一度のいい機会ですので、考えてみたいと思います。会員各位におかれましても、平和のありがたさを感謝する日にしていただきたいと思います。



幹事報告

幹事 森崎祐治君

①故望月様への弔意文へのお礼

12月4日(日)の望月元会員本葬に、皆さまからの送る言葉、お別れの言葉、急遽でしたが多数お寄せいただきありがとうございました。当日会長よりまとめてお届けしました。

②次回例会は15日、クラブ協議会です。上半期委員会報告をしていただきますのでよろしくお願い致します。また22日例会の出欠、参加申し込みが未だの方はよろしくお願い致します。

③1月6日(金)4クラブ合同新年会について
せせらぎ三島クラブがホストクラブでブケ東海三島で午後6時30分開始となります。また出欠を取らせていただきますのでよろしくお願い致します。

2011~2012年度
国際ロータリー会長
カルヤン・パネルジー

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

おめでとう

会員誕生日 米山君、岸田君
結婚記念日 花房君

スマイルボックス

- ◆ 藤江君、新人の藤江です。①入会させていただきありがとうございました。②今月議会の一般質問しました。持ち時間50分±0でした。
- ◆ 窪田君、今日富士文化センターで国産材の活用の研修会に参加してきました。とてもいい勉強になり木の仕事に活用したいと思いました。
- ◆ Eテーブル、先日あたたかくふぐ鍋をかこみました。
- ◆ 石井(良)君、途中で失礼します。

入会おめでとう



藤江 康儀 君

生年月日 昭和33年1月3日
代表事業所 有限会社 フジエ物産
役職 代表取締役
家族構成 妻 長女 次女
趣味 スポーツ

ROTARY NEWS

機械化された水設備でガーナ1万人にきれいな水を

国際ロータリーとUSAID(米国国際開発庁)の提携による「国際H20協力」を通じて、機械化された水システムが導入され、それまで安全な水が利用できなかったガーナの1万人以上にきれいな水がもたらされました。この水システムは、200万米ドルをかけたプロジェクトの一環であり、そのほかにも掘削、手動式ポンプ、機械化されたパイプのほか、換気設備の整った穴式トイレ、シャワーの設置などが行われました。

8月21日に行われた完成式では、カルヤン・パネルジーRI会長、USAIDガーナ事務局のローレル・フェイン代表、ガーナ水資源・工事、住宅庁のムスタファ・アメッド副大臣の列席の下、完成した水システムが正式に現地の人々に引き継がれました。

「このプロジェクトは、官民パートナーシップの見本となるものです。人々の生活の質を高めるだけでなく、彼らの人生そのものに計り知れない影響を与えていくでしょう」とパネルジーRI会長。また、フェイン氏も「USAID、ガーナ政府、国際ロータリーによる画期的なパートナーシップで、汚染水を使う人が減り、大勢の命が救われるでしょう。(中略)今後は、地域の人々とガーナ政府がこの水システムの管理を引き継ぎ、他からの援助を必要としない自立した地域づくりが行われます」

今年3年目に入った国際H20協力。ガーナでは、ロータリアンが村人たちを対象に、適切な衛生習慣や新設備の維持方法に関する研修も行っています。さらに、ドミニカ共和国では衛生研修やパイオ砂フィルターの設置、フィリピンでは下水回収・処理システムの改善などが行われています。

これまでに国際H20協力では、プロジェクトの監督と事後評価の重要性、長期的取り組みの必要性、地域の人々の参加と関心を高めることで持続可能な成果を得ることなど、今後に生かせる教訓やベストプラクティスが得られたと、参加したロータリアンとUSAID関係者は言います。また、特に水プロジェクトの場合は、現地の真のニーズ、新しい習慣を教える際の障壁、水・衛生設備の使用料を払う地域住民の経済力などの事前調査などが、成功へのカギであることが実証されました。

(週報担当：石井 彰)